

2021年春学期「経済学と聖書」(予定)担当:井口 泰 10:30-10:55

4月9日 コロナ危機1年:新しい現実

コロサイ3:1~4

16日 災害・疫病と経済

テサロニケ I 5:2~8

23日 K字型回復の現実

マタイ13:11~12

30日 逆説が経済を救う

ルカ 6:20~26

5月7日 脱炭素への重圧

ローマ8:19~22

14日 サイエンスと愛

コリント I 13:8-12

21日 メガ・プラットフォーマーの衝撃

ヨハネ 8:32

5月28日 グローバル・サプライチェーンの謎

ヨハネ8:32

6月4日 つまずきの石:経済危機と世界

コリント1:23

11日 待ち望むべき世界

詩編 130:5~7

18日 世界の分離対立と克服の希望

ローマ5:20

25日 新しい歌を歌えるのか

詩編 98:1

7月2日 どうしたら真理を経験できるか

コリント I 2:10

9日 新しいことが起こる

イザヤ65:16~17

喜びは主のうちに

1

喜びは 主のうちに、
愛するイエスよ。
苦しみのきわみにも
恵は豊か。
主の望み置くものは
とこしえの生命うけ、
救れる、ハレルヤ。
生きる時、死ぬ時も
主イエスから離すもの
何もない、ハレルヤ。

2

世も悪も 罪も死も
主に支配され、
苦しみを喜びに
かえてくださる。
われらみな、この時に
高らかに主をたたえ、
声合あわわせ、ハレルヤ。
主を愛し、主をあがめ、
喜びの声こえあげる、
心から、ハレルヤ。

T: Cyriakus Schnneegas M: Giovanni G. Gastldi

In dir ist Freude

1 In dir ist Freude in allem Leide, o du süßer Jesu Christ!

Durch dich wir haben himmlische Gaben, du der wahre
Heiland bist;

hilfest von Schanden, rettetest von Banden. Wer dir
vertrauet, hat wohl gebauet, wird ewig bleiben. Halleluja.

Zu deiner Güte steht unser G'müte, an dir wir kleben im
Tod und Leben; nichts kann uns scheiden. Halleluja.

2 Wenn wir dich haben, kann uns nicht schaden Teufel,
Welt, Sünd oder Tod;

du hast's in Händen, kannst alles wenden, wie nur heißen
mag die Not.

Drum wir dich ehren, dein Lob vermehren mit hellem
Schalle, freuen uns alle zu dieser Stunde. Halleluja.

Wir jubilieren und triumphieren, lieben und loben dein
Macht dort droben mit Herz und Munde. Halleluja.

「……上にあるものを思いなさい。地にあるものを思ってはなりません。あなた方は、すでに死んでいて、あなたがたのいのちは、キリストとともに神のうちに隠されているのです。……」

現実の私たちは、日々の現実の課題に固くつながり、上にあるもの(神様のこと)を思うひとは少ないでしょう。地上では、「神なき者」である私たちにとって、地上の課題こそ、全てにみえます。私たちが世界を知るための手段とする経済学も、地上のことにしか、役立たないようにみえます。ただし、その処方箋は、お互いに矛盾することも少なくありません。

コロナ危機の世界で起きることは多くの予想を超え、不気味です。効果あるワクチンが、早くに開発されたことは驚きであり、すばらしい成果ですが、感染拡大を減速させるまで普及が進むのか、その間、どれだけの犠牲が生じるのか予測はできません。

命の危機にさらされ続けている私たちは、日々の不安でストレスが蓄積すると健康を損ねるだけでなく、日々の行動や人生の展望も変容を余儀なくされてしまいます。

また、世界経済危機(2008年)を超える経済活動の低下からの回復が、新たな格差を伴う「K字型」になっています。また、世界に広がるサプライチェーンの維持と再編成が大きな課題となっています。発動された経済対策と金融緩和は、もはや例をみない巨額な水準に達し、その副作用を十分に理解できていません。

先週日曜日(4月4日)は復活祭(イースター)でした。実に、本日の聖書の箇所は、イエス様が死(よみ)の世界に下られながら、底を打つように、復活された「不可解な事実」において、語られたものなのです。

私たちが、現在どんな不安や困窮や絶望を体験し、私たちの命がいずれ死を迎えようと、逆境のなかで生きる力が与えられ、情熱や喜びを持って、生きるいのちが集められることを、指し示しています。

私たちは、そのような意味で、「キリストの下に隠されている(まことの)命」が存在することを、信じる事ができるのです。

聖書は不可解であり、科学的な理解を超えようと思う方も少なくはないでしょう。それでも、経済学を学ぶ皆さんに、聖書を自ら読むことで、多くのことを発見し、受け止めていただけたらと思います。また、そのことを心から、願っています。

今学期、チャペルに与えられた時間は、授業時間割の延長と変更の結果、実質的に短くなってしまいました。しかし、どんな状況であれ、常に、現在という時は二度と帰ってはきません。金曜日のチャペルに集まり、この瞬間を同時に生きている世界中の人々と、その抱えている課題や困難のことを思いましよう。

その際、聖書を読んで問いましよう。「なぜ、どうして」。その意味で、聖書を読むことは、サイエンスと、かわらないのです。あなたにが聖書を読むことで、豊かな視野と思いが与えられ、生きる勇気が生み出されるように、祈っております。